



議会だより

おやま 町議会

No. 138

発行：静岡県駿東郡小山町議会



207名の園児 元気に仲良く 新しい歴史を刻みます!

～きたごうこども園 開園式～

3月
定例会

- 平成26年度予算 4つの分野に重点を置いて配分 … 2
- 一般会計予算の使い道は? … 3
- 「金太郎のような元気なまち」を目指して予算質疑 … 4
- 平成25年度補正予算 除雪費などに追加補正 … 5
- 各常任委員会での議論を報告 … 6
- 町政のここが知りたい 代表質問・一般質問8人 … 7
- 研修報告・私の望み (小山中学校) … 16

3月定例会

～歳入は7年ぶりの増収を見込む!～ 平成26年度当初予算(特別会計含む) 134億8,161万3千円を可決!

平成26年第1回3月定例会が、2月25日から3月19日までの23日間の会期で開催されました。

今定例会には、町から平成26年度当初予算や条例など26議案、議会から1議案の合計27議案が提出され、審議の結果、いずれも原案のとおり可決されました。

平成26年度予算重点分野

- 1 内陸のフロンティアを拓く取組として、(仮称)小山PA周辺、湯船原地区、足柄SA周辺の3地区の開発に向けた施策を進めます。
- 2 富士山の世界遺産登録を受け、構成資産をはじめとした町の観光・環境施策を進めます。
- 3 安心・安全なまちづくりとして、災害に強いまちづくりの施策を進めます。
- 4 定住人口拡大及び少子高齢化に対する施策を進めます。



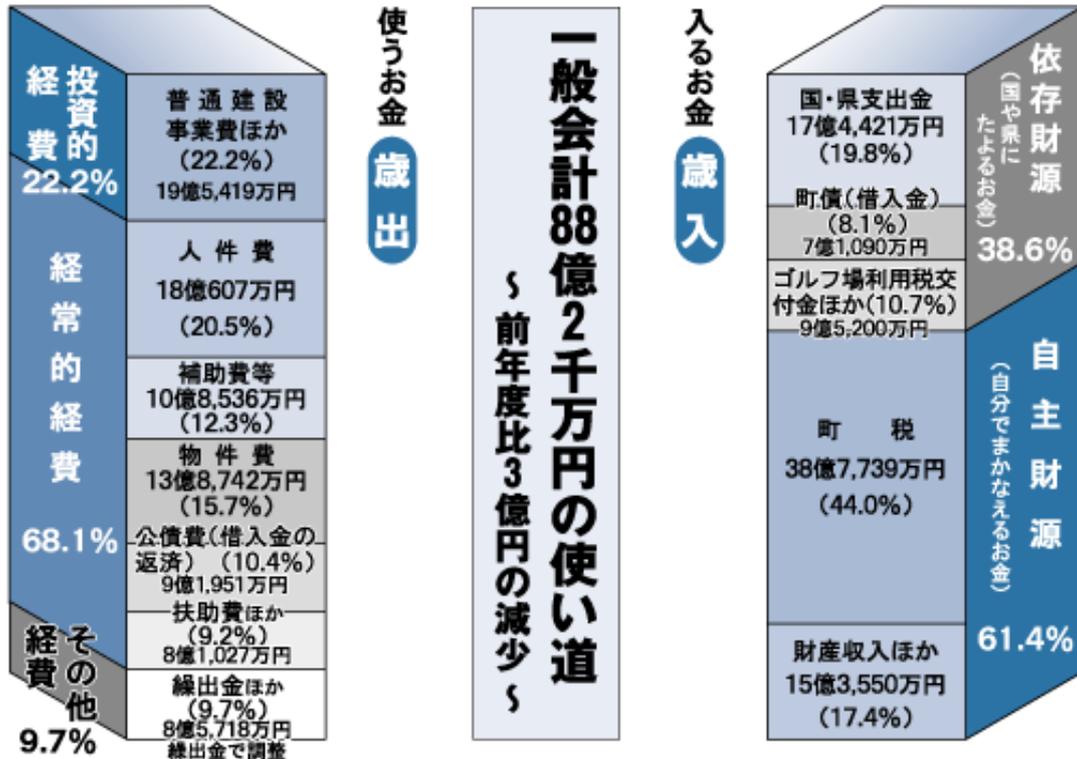
▲世界遺産「富士山」を更に活用
(開山式前夜祭より)



▲足柄SA周辺地区開発も積極的に
(特別委員会視察より)

定例会の冒頭、町長から、平成26年度は、4つの分野に重点を置いて予算を配分するとの施政方針がありました。その後、各部長から、具体的な事業説明等があり、それらに基づいて、本会議及び各常任委員会において慎重審議し、平成26年度当初予算を原案のとおり可決しました。

4つの分野に重点を置いて配分
総合計画の基本目標に沿った施策等を着実に推進



～主な町税の比較(前年度比 7,968万2千円増を見込む)～

- ・個人町民税 10億8,200万円 (前年度比 1,500万円増)
- ・法人町民税 4億 10万円 (前年度比 7,100万円増)
- ・固定資産税 22億1,680万円 (前年度比 1,200万円減)
 - ・軽自動車税 3,941万円 (前年度比 24万円減)
 - ・町たばこ税 1億3,900万円 (前年度比 600万円増)
 - ・入湯税 8万円 (前年度比 約7万円減)

一般会計予算の歳出内訳

性質別	予算額(千円)	構成比(%)	対前年伸び率(%)
議会費	94,946	1.1	△ 4.6
総務費	1,420,774	16.1	△ 3.5
民生費	1,844,938	20.9	△ 16.6
衛生費	838,784	9.5	△ 12.6
農林水産業費	310,035	3.5	△ 46.0
商工費	223,296	2.5	△ 22.2
土木費	1,499,154	17.0	33.9
消防費	436,477	5.0	△ 26.0
教育費	1,199,290	13.6	34.9
災害復旧費	17,800	0.2	△ 6.6
公債費	919,506	10.4	4.2
予備費	15,000	0.2	-----
合計	8,820,000	100.0	△ 3.3

各会計の予算額

会計	26年度(千円)	対前年伸び率(%)
一般会計	8,820,000	△ 3.3
国民健康保険特別会計	1,989,000	4.1
育英奨学資金特別会計	5,435	△ 9.7
後期高齢者医療特別会計	210,090	6.6
下水道事業特別会計	198,655	15.2
土地取得特別会計	3	-----
介護保険特別会計	1,670,000	6.4
宅地造成事業特別会計	116,427	新設
水道事業会計(収益的支出)	270,124	27.4
水道事業会計(資本的支出)	201,879	33.1
合計	13,481,613	1.1

「金太郎のような元気なまち」を目指して

～平成26年度当初予算関連 本会議 質疑 ピックアップ～

一般会計

町内巡回バス

Q 現在、見直しが進んでいる町内巡回バスについて、26年度の運行はどのようなのか。

A 健康課・生涯学習課による巡回バス等を、26年9月末を目処に終了し、10月から生涯学習センターを拠点に地域間を結ぶコミュニティバスの運行を開始する予定です。また、町域公共交通会議において、バス・鉄道等を含めた公共交通網形成に関する計画を、5月を目処に策定します。

三来拠点づくり

Q 三来拠点地区開発可能性調査の内容は。

A 26年度は、足柄S A周辺地区にRDFセンターを含む約30haについて、法規制状況・造成基本方針・下流河川流末処理検討・基本計画策定・概算事業費算出等を行います。

災害対策

Q 災害対策本部映像装置約1千万円はどのようなものか。

A 現在、町の災害対策本部機能の一部を統合文化会館へ移転を実施しています。その本部機能整備の一環として、災害時等に町民を守るため、迅速に対応、行動するための判断材料として必要な情報等を一度に複数の画面で表示し、本部員等が共有することのできる映像機器等の整備です。

NPO支援

Q NPO支援センター業務の内容は。

A NPO法人に委託し、協働のまちづくりを推進するため、町内活動団体へ情報提供・相談・アドバイスを、新規団体発足支援等を文化会館の開館日の午前10時から午後4時まで対応しています。

定住促進

Q 定住促進事業について

詳しい説明ともしっかりと大胆な施策は打ち出せないか。

A 町内では、民間宅地造成が低調な傾向にあり、造成を誘導する意味で町が率先して町有地を宅地造成し分譲をしています。26年度は、特別会計を設け、南藤曲団地C・D棟建設予定地等で宅地分譲を実施していきます。また、土地利用指導要綱の緩和や住宅建築する方への支援窓口を一本化する、出産祝い金等の継続など複合的に施策を展開します。

特別会計

下水道会計

Q 現在の下水道使用料滞納繰越分への対応と回収率は。

A 滞納者への戸別訪問など滞納整理と納税指導等に努めています。滞納繰越分における回収率は、24年度決算で21.54%です。26年度からは収納推進室が設置されることに伴い、更なる回収率の向上に努めます。

一般会計予算に対する討論

反対

静岡県経済の回復は、全国に比べ遅れ、実感が持てないと言われている。その中で予算編成は、町税は増収見込みだが、消費増税による景気の腰折れ等の不確定要素も多い。提案説明で4つの重点分野に配分とのことだが、旧小山地区の「地盤沈下」防止対策に向けた際立った施策は見い出せない。また、定住人口拡大策も十分でない。そして、一般町道整備も対応しきれていない感がある。ほか疑問点も多く、認める部分もあるが、一般会計予算に対しての反対討論とする。

(高畑博行)

賛成

町では7年ぶりの増収を見込むが、厳しい財政状況を認識しての予算編成と考える。内陸のフロンティアを拓く取組には、積極的かつ具体的な予算編成である。また、町道整備事業等では補助財源等を十分に研究活用した積極的な予算である。ほか、地域公共交通の再編、地域福祉、健康づくり、防災対策、活力ある工業振興策など、より具体的な取り組みを示す予算となっている。よって、一般会計予算に対しての賛成討論とする。

(新生会 梶 繁美)

一般会計予算は、討論の結果、賛成10、反対1で可決。その他予算は全員賛成で可決しました。



▲町内を襲った大雪(須走地区)

除雪費5千万円など全員賛成で可決

平成25年度補正予算関連

平成25年度予算の決算見込み額を把握し、予算額を整理するとともに、平成26年度へ継続や繰越しをする事業等の予算を補正しました。いずれの補正予算も全員賛成で可決。

一般会計

歳入歳出を2千453万5千円減額し、総額を97億3千130万6千円とする。

歳入の主なもの

町民税(法人)
1億1千100万円増額
固定資産税
1千800万円増額

ゴルフ場利用税交付金
1千万円減額

いずれも決算見込み額に合わせて、増額または減額。

歳出の主なもの

企業立地振興費
110万円増額

湯船原地区での次世代圏芸施設整備のための調査費
保青園耐震化事業費
1千500万円減額

またこう保青園舎建設工事の決算見込み額
3千272万3千円減額

森林整備事業費
5千円増額
除雪の委託料及び町道凍結防止用の塩化カルシウム購入費

町道維持管理費
5千円増額
除雪の委託料及び町道凍結防止用の塩化カルシウム購入費

国民健康保険

歳入歳出を4千4万7千円増額し、総額を20億5千574万9千円とする。
保険給付等基金を4千万

その他特別会計

下水道特別会計は、歳入歳出を100万円増加し、総額を1億7千343万2千円とする。

宅地造成事業特別会計を新設

条例制定・一部改正など

宅地造成事業

特別会計条例

町は、人口2万人を下回る状態が続いており人口増加と流出抑制の集中対策として、町内において町が積極的に宅地造成を推進して行く必要がある。その宅地造成事業に関する経理を明確にし、円滑に運営するため特別会計を設ける。この会計は、用地買収費や造成工事費等を起債し、宅地の売却収入と一部の区画賃借料で返済をしていく。

非常勤消防団員に係る退職報奨金の支給に関する条例の一部改正

「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が公布・施行されたことに伴い、5年以上勤務して退職した消防団員に、階級等に応じ退職報奨金を一律5万円引き上げ、最低支給額を20万円に引き上げるよう条例の一部改正。

職員の給与に関する条例の一部改正

道路占用料等徴収条例

介護保険特別会計は、歳入歳出を51万1千円増額し、総額を15億9千495万2千円とする。

水道事業会計は、水道事業収益の930万円減額が主なもの。

いずれも、決算見込み額に合わせて予算額を整理するものが主な理由。

の一部改正

社会教育委員条例の一部改正

議会委員会条例の一部改正
いずれの条例も全員賛成で可決。

その他の議案

6月定例会補正予算(第7号)
きたこう保育園外構工事契約変更
町道3975号線橋梁整備工事契約変更
富士山須走口五合目電化工事契約変更
ほか、町道路線の認定及び変更などが審議され、いずれも全員賛成で可決・承認・認定されました。

本会議以外の議会の活動

- ◆2月4日(火) 愛知県扶養町議会及び岩手県盛岡市議会視察受入
- ◆2月5日(水) 議員懇談会
- ◆2月7日(金) 議員懇談会
- ◆2月14日(金) 議員懇談会
- ◆3月18日(火) 議員懇談会
- ◆3月19日(水) 内陸フロンティア対策特別委員会 現地視察
- ◆4月2日(水) 議員懇談会
- ほか、委員会、会派及び個人で活動しました。

- 6月定例会のお知らせ
平成26年6月定例会の予定は次のとおり。
- ◆6月4日(水) 町長から提案説明ほか
- ◆6月10日(火) 通告による一般質問
- ◆6月12日(木) 総務建設委員会
- ◆6月13日(金) 文教厚生委員会
- ◆6月20日(金) 審査報告、質疑、採決
※変更になる場合があります。

～上下水道料金等の予算への反映などを問う～ 総務建設委員会の報告 委員長 阿部 司

総務建設委員会を3月10日に開催、平成26年度一般会計予算等、10件の議案についての審議を行い、いずれも原案のとおり可決すべきものと決しました。

主な審議内容は次のとおり。

平成26年度一般会計予算

Q 富士山世界遺産町づくり事業補助金の事業内容は、

A 地域コミュニティ団体の町づくり・地域づくりのための事業に対する助成事業で、平成25年度は世界文化遺産登録記念開山式前夜祭の町づくり事業に対して補助を実施し、26年度も須走地区町づくり推進協議会に補助の実施を考えています。



▲町道認定を視察(南藤曲団地付近)

Q 道路維持補修事業について、平成25年度の各地区からの要望数と実施予定件数及び今後の予定件数は、

A 各地区からの要望件数347件、そのうち90件を実施し、未精算件数は24件です。

Q 現在の町営住宅の住宅数と実居住している使用住宅数は、また今後の町営住宅の統合等の計画は、

A 管理戸数は、47戸です。その内、現在入居されている戸数は35戸です。町営住宅長寿命化計画に基づいて用途廃止等を予定している町営住宅については、随時

廃止の方向へ進んでいきたいと考えています。

平成26年度水道事業会計予算

Q 水道料はいろいろな審議を経て料金改定をした。健全な水道会計を保ち、上がった分の水道料金については施設を直していく約束がある。26年度予算に、どのように対応したのか。

A 北郷水系の配水管布設工事、柳島地内の老朽管布設替工事、大胡田地先の県道改良工事に合わせた配水管布設替工事を計上しました。順次、老朽管について対応していきます。

～新規事業 健康マイレージ事業とは?～ 文教厚生委員会の報告 委員長 渡辺悦郎

3月11日開催で、付託案件は全員賛成、賛成多数で可決されました。主な内容は次のとおりです。

平成26年度一般会計予算

Q 健康マイレージ事業とは?

A この事業は町民が楽しく元気に健康で暮らせるまちづくりを推進し、健康生活が好循環する社会環境を推進することを目的としています。

Q 富士登山ツアー受け入れ事業交付金での実施内容は?

A 昨年の反省に基づき柔軟性ある計画で意義ある事業にしていきたいです。

Q 自主防災推進



▲きたごうこども園を視察▶

Q 様々な状況を想定した訓練の予定は?

A 6月に異常気象の対応、10月に富士山噴火を想定した3県合同訓練、12月には地震を想定した訓練を自主防災組織と連携し実践的な訓練を計画しています。

Q 足柄城跡資料作成交付金の計画と内容は?

A 足柄峠全体を文化財指定として検討する際の基礎資料とするため、総合調査



と報告書の作成を予定しています。

平成26年度国民健康保険特別会計予算

Q 国保税の見直しは?

A 国民健康保険は、被保険者の年齢構成、医療費水準、所得水準、収納率等、構造的な問題を抱えています。医療費に歯止めがかからない場合、国保の税率改正は避けられないと考えます。

平成26年度に向け 会派から代表質問



新生会を代表して
米山千晴



▲2月の大雪に伴う現地災害対策本部の様子(須走)

Q 平成26年度予算に盛り込まれた町長の考えは

A 4つの分野を重点的に全力で取り組みます

Q 町長は当選以来「金太郎」のような元気のあるまちにするため、スピード感と強いリーダーシップを持って町をけん引していることは、昨年行われた政策提言関連事業進捗状況中間検証大会でもかなり高い評価を得ています。また、内陸のフロンティアを拓く取組に関連する施策は、町の未来

Q 就任後3年間の総括と26年度に対する考えは。

A 町長 町長就任以来3年間が過ぎました。この間に、災害復旧事業は完了し、山地強靱化に取り組み、富士山が世界遺産に登録され、三来地点の取組についても希望が見えてきました。平成26年度は、締めくくりの年であり、町民の皆様が、安心して明るく暮らせるまちをつくるため一層努力してまいります。

Q 26年度事業の内、特に思いのある事業は。

A 町長 平成26年度予算は、小山町を元気なまちにするために、重点分野を設け、三来地点の取組、富士山観光・環境施策、山地強靱化総合対策、定住促進事業、宅地供給事業等に取り組みまいります。

Q 災害対策本部の設置場所と公的施設の集約は

A 総合文化会館への全機能移行について検討します

Q 2月14日から関東甲信越を襲った大雪は、須走地区で1mを超す積雪となり、要救助者が出るなど記録的豪雪を記録しました。災害対策本部が設置され、自衛隊への派遣要請と夜を徹しての除雪作業や町長自ら現地に入り陣頭指揮をされたことは大変心強いものでした。そこで、昨今の異常気象、

Q 東南海地震や富士山噴火に備え、今後、災害対策本部を町域の中央に設置し、あわせて公共施設を集約すべきと考えます。

A 町長 現在、災害対策本部は、役場本庁大会議室としてあります。本部機能は、施設の安全性、電力や水道施設、災害情報システムなどの整備充実が求められます。しかし、本庁舎は、平成22年9月台風9号災害時、建物に危険がせまった事実もあり、平成25年度から、総合文化会館に本部機能の一部を移転するなどの整備を進めています。今後、全機能の移行

Q 今後の公共施設集約化は。

A 町長 公共施設集約化は、作成し、公共施設の将来あるべき姿を町行財政改革審議会から答申をいただきながら検討します。

一般質問に8人が登壇



▲農業委員会による農地確認の様子



込山恒広

Q 町の農業をどうするの？

A 農業委員会と町が一体で農地の有効活用を図ります

Q 政府は、環太平洋経済連携協定へ

2013年7月から参加し、日本の農業には暗雲が漂っております。それらを打ち消すかのよう

に、農地中間管理機構、減反廃止、直接支払等次々に政策を打ち出してあります。

Q 政府は、環太平洋経済連携協定へ

2013年7月から参加し、日本の農業には暗雲が漂っております。それらを打ち消すかのよう

に、農地中間管理機構、減反廃止、直接支払等次々に政策を打ち出してあります。

A 農業委員長

農業委員会では、農地の売買・貸し借りの許可や農地転用の許可、遊休農地対策、違反転用防止対策など農地に関する業務を主にしております。



▲一筆ずつ不作付地の調査をします
※ 不作付地とは：1年以上作付けしなかったが今後数年間に再び耕作する意志のある土地

A 経済建設部長

米価が下落傾向にある中、米作り農家の経営を安定させるためには、減農薬・減肥料の「特別栽培米」の拡大や、新品種の導入など、消費者ニーズに合った米作りを推進

し、併せて学校給食へ食料供給の拡大など、地域での消費拡大を目指していきます。

また、地域での話し合いを進め、地域の担い手である認定農業者を中心とした農業施策を進め、農地の有効活用を図ります。

～町政のここが知りたい～



池谷 洋子



▲女性団員も活躍する小山町消防団

Q 地域防災力の強化を！”消防団員の処遇は”

A 活動しやすい環境整備等の充実強化に努めます

消防団は消防署と共に火災や災害への対応などを行う消防組織法に基づいた組織です。全国の自治体に設置され団員は非常勤特別職の地方公務員として条例により年額報酬や出勤手当などが支給され、火災や災害発生時には、いち早く自宅や職場から現場に駆け付け対応に当たる。地域防災の要です。しかし、実態は厳しく全国的には団員の数は減少しています。こうした事態を受け昨年12月に消防団を支援する「消防団支援法」が成立、施行されました。町では過去に台風9号による局地的な豪雨や今回の大雪による自然災害など地域防災力の強化が喫緊の課題となる中、消防団の重要性が改めて注目を集めています。

A 小山消防署長

町では、消防団員が退職された場合「町非常勤消防団員に係る退職報酬金の支給に関する条例」に基づき、退職報酬金を支給しています。支給は「消防団員等公務災害補償等共済基金」により、勤務年数が5年以上から30年間まで5年区切りと階級別に定められ、町は基金の基準額と同額です。退職報酬金について、国から新たに基準額が示され、政令等が改正されれば、町も追加工程します。なお、報酬や出勤手当については、近隣市町の状況等みながら今後、検討していきます。

A 小山消防署長

条例では、定数を188名と定め現在団員数は178名で充足率は94・6%です。消防団員は災害発生時には自分の家族を守らなければならない人が、地域の安全・安心のために危険な災害現場に出勤します。体制の充実については、災害時の出勤拠点となる車庫詰所を整備していることです。また、車両更新計画に基づき、3月に第7分団車両が更新されました。今後とも消防団員が活動しやすい環境整備や装備品等の充実強化に努めていきます。

A 小山消防署長

消防団に入団している町の職員は、災害時は役場の仕事と地域の消防団活動とどちらが優先か。

A 小山消防署長

災害状況にもよりますが、人命救助の観点から本部長の許可に基づき団

A 小山消防署長

これからの予想される大災害に対しての人力をもっと対処しなければと考えるが、今後、指導者や専門的能力も持った人材の確保、また、多様な職種を持つ人材の参画できる環境整備に努めることが急務と思うが。

A 小山消防署長

指導者、専門的な人材確保や環境整備に努めていきます。

報酬、出勤手当を引き上げること。この事について各自治体に条例改正を強く



▲第7分団に配備された消防車

活動に従事しています。



▲ 昨年行われた地域での防災訓練の様子



高畑 博行

Q 大規模災害や自主防災組織に関した町の考えは

A 大規模災害に対応した組織や訓練などを充実・強化

Q 県の第4次地震被害想定2次報告と富士山噴火時の広域避難計画に対して、町長の感想や評価について伺う。

A 県の第4次地震被害想定2次報告は、被害想定が詳細な数字で示されており、地域防災計画やアクションプログラムに反映します。富士山噴火時の広域避難計画は、内容的には十分ではないが、策定したことに意義があると考えています。避難計画については、特性を考慮していない避難計画となっております。

Q 2次報告と広域避難計画について、小山町関連で特徴的な点は、

A 12月に行なっている地域防災訓練の数年の参加状況は、

Q 第2次報告では、各種被害が第3次に比べると相模トラフ沿いで甚大な被害となる。広域避難計画では県境を有する町の

A 直近3年間では約7千人が参加しています。

Q 各区の自主防災組織と、毎年行なっている訓練内容の見直し

A 家庭の防災グッズや各区の防災備品の備蓄充実を図る指導が必要なのではないか。

Q 家庭の防災グッズや各区の防災備品の備蓄充実を図る指導が必要なのではないか。

A 防災グッズや備蓄品の資料を配布し対応します。

Q 「学力テスト」問題と町の対応は

A 分析結果等を基に「授業改善の視点」を周知しました

Q 町内小中学校の学力調査結果は全国や県と比較してどうか。

A 設置や対応策はあるか。19年に「小山町全国学力学習状況調査検証会議」を設け本年度も会議を開き、分析結果等を基に「授業改善の視点」をつくり周知しました。

Q 26年度の学力テスト結果について、公表の考えはあるか。

A 順位や点数を必要以上に気にする学力偏重の教育が優先される恐れからも、数値結果を公表する予定はありません。ただし、知的な基盤は大切ですので必要な学力を身に付けていく授業実践を進めていきます。

Q 本来、児童生徒につけさせたい学

A 力とほどういふものか。「学習指導要領」に基づき学習に限った学力は、教師が日々研修を重ね授業改善に努めています。ただし、それだけでなく、自ら思考し、判断し、表現し、実践する社会性や生活力など長い時間をかけ「生涯を通じて生きて働く学力」があると考えます。

Q 学力向上に向けた町独自の委員会

A 小学校の国語は県の平均値で全国平均より低く、算数は全国や県の平均値とほぼ同じです。中学校は国語数学とも全国や県とほぼ同じ平均値でした。

Q 26年度の学力テスト結果について、公表の考えはあるか。

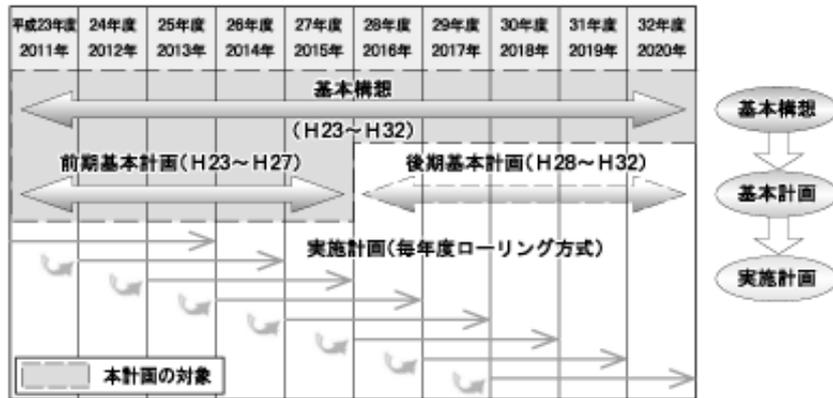
A 順位や点数を必要以上に気にする学力偏重の教育が優先される恐れからも、数値結果を公表する予定はありません。ただし、知的な基盤は大切ですので必要な学力を身に付けていく授業実践を進めていきます。

Q 本来、児童生徒につけさせたい学

A 力とほどういふものか。「学習指導要領」に基づき学習に限った学力は、教師が日々研修を重ね授業改善に努めています。ただし、それだけでなく、自ら思考し、判断し、表現し、実践する社会性や生活力など長い時間をかけ「生涯を通じて生きて働く学力」があると考えます。



湯山 鉄夫



▲ 第4次総合計画の流れ(平成32年度まで)

Q 町づくり施策は堅実に円滑に実現されているか

A 施策を着実に実現します

平成32年に向けた町づくり第4次小山町総合計画は、既に3力年を経過しました。基本目標、基本計画、各分野にわたる施策の策定等定めた取り組みは進展の途にあるのが、進捗状況はどうなのか、進捗状況はどうか、今後は、当初より織り込まれた4つの目標、35の施策に対して、向こう3力年に必要とする実施項目と新たに発生する政策や事業計画を採用しつつ実績を積み重ね、我が町の進歩発展、卓越した町に創造していくことが必要です。

Q 総合計画の実践は着実に推移され、新規政策等の採用はあるか。

A 町長 一番の町づくり 各事業の遂行状況は、実施計画により検証してまいります。

の計画である、総合計画は「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」から構成されています。実施計画は、具体的な事業を財政的な裏付けをもつて3年間の計画期間で毎年度ローリング方式により、実効性の高い計画を策定してまいります。

おり、順調に進捗しています。新たな政策として、「三栄拠点」の取組や世界遺産登録を受けた富士山についての観光・環境施策、再生可能エネルギー検討事業、自治基本条例制定等に取り組んでまいります。

Q 町づくり計画の実績評価等の情報は公表されるか

A 行政評価システムを用いて今後も公表します

総合計画を実施するには、毎年実施計画書が策定されます。過年度における予算決算や事業を検証し、計画に対する進捗状況を把握することで、町政は常に進化を図っていく必要があります。そもそも町民は、総合計画の取り組み内容や実施したことが、実施しているか

と、今後新規に実施する事項などに対して情報不足があり、現在の状況を開示し町民と行政が共有する必要があるのではないのでしょうか。

総合計画において実績成果や評価についての状況公表は、

総合計画実施計画については、平成24年度から導入した、行政評価システムで評価を行っています。システムの中で、事務事業評価シートを作成し、各事業において、活動や成果の目標を設け、毎年度行われるローリング時に、事務事業評価を実施しています。

平成24年度の場合は、79の事務事業を抽出して、担当課で、一次評価を実施し、さらに、その内の13事業について、行政アドバイザーと特別職による、二次評価を実施し、ホームページ上で79事業すべてを公表しています。今後も評価を公表してまいります。

A 町長戦略課長



▲町内スポーツ少年団の交流イベントも開催



桜井 光一
(新生会)

Q 青少年に希望と夢と光を

A 小山町体育協会とも協議し検討していきます

近年我が町の青少年のスポーツ熱は目を見張るものがあります。日常の会話の中でも小山町のスポーツは凄いとよく耳にします。まさに「スポーツ王国小山町」が誕生しつつあります。そこで、現状維持・進展・発展の為に、町としても最大限の支援が必要と考えます。「青少年に希望と夢と光を」と題して将来を担う青少年育成の為に次の3点の質問をします。

Q 町ではスポーツ少年団があり各小学校の児童が入団しそれぞれ活躍しています。少年団名と人員は？助成金額は妥当か？その根拠は？また、配分方法を伺う。

A 生涯学習課長
スポーツ少年団は、北郷スポーツ少年団、明倫スポーツ少年団、小山ジュニアフットボールクラブスポーツ少年団、北郷ジュニアバレーボールクラブスポーツ少年団、須走スポーツ少年団、北郷成美ミニバススポーツ少年団、小山ミニバスケットボールスポーツ少年団の7団体で、指導者77人、団員228人です。

Q また、配分方法については、県及び町への登録料と、残額を均等割額として合計52万円を各団体へ配分しているとの報告を受けています。

A 町長 眞ととして
各少年団・各スポーツ団体より、シーズンで最も活躍し頑張った団員・団体に町から「金太郎賞」なる表彰をする考えは。

Q 多目的広場と小山球場に照明設備を設置する考えは。青少年はもちろん、スポーツを愛する町民関係者のほとんどは待ち望んでいるのではないかと。昨年のナイター利用状況はどうか？設置されれば各方面より利用者も増え町の活性化にも繋がるのではないかと。

A 生涯学習課長
多目的広場と小山球場に照明設備を設置する考えは、被表彰者の公平な選定等が求められるため、スポーツ団体に精通するNPO法人小山町体育協会と協議し検討して行きたいと考えています。



▲現在の小山球場

Q 少年団があり各小学校の児童が入団しそれぞれ活躍しています。少年団名と人員は？助成金額は妥当か？その根拠は？また、配分方法を伺う。

A 生涯学習課長
スポーツ少年団は、北郷スポーツ少年団、明倫スポーツ少年団、小山ジュニアフットボールクラブスポーツ少年団、北郷ジュニアバレーボールクラブスポーツ少年団、須走スポーツ少年団、北郷成美ミニバススポーツ少年団、小山ミニバスケットボールスポーツ少年団の7団体で、指導者77人、団員228人です。

Q また、配分方法については、県及び町への登録料と、残額を均等割額として合計52万円を各団体へ配分しているとの報告を受けています。

A 町長 眞ととして
各少年団・各スポーツ団体より、シーズンで最も活躍し頑張った団員・団体に町から「金太郎賞」なる表彰をする考えは。

Q 多目的広場と小山球場に照明設備を設置する考えは。青少年はもちろん、スポーツを愛する町民関係者のほとんどは待ち望んでいるのではないかと。昨年のナイター利用状況はどうか？設置されれば各方面より利用者も増え町の活性化にも繋がるのではないかと。

A 生涯学習課長
多目的広場と小山球場に照明設備を設置する考えは、被表彰者の公平な選定等が求められるため、スポーツ団体に精通するNPO法人小山町体育協会と協議し検討して行きたいと考えています。

Q 現在の小山球場は、多目的広場の道路側にホタルの里を整備し、ホタルの育成を行っており、環境面に配慮しなければならぬことがありません。また、照明施設は設置及びその後の維持管理における財政負担が大きいということもありません。

A 町長 眞ととして
現在の厳しい財政状況下では、早期の実施が困難と考えています。



渡辺悦郎
(新生会)



▲道の駅「ふじおやま」に設置されている急速充電器

Q 道の駅の電気自動車用急速充電器の利用は

A 急速充電器の効率的な運用について検討します

町内2カ所の道の駅に設置され1年を経過した。多くの方々に利用して頂くために次の質問をします。

Q 町内2カ所の道の駅に設置され1年を経過した。多くの方々に利用して頂くために次の質問をします。

A 現在は無料であるが年間の維持費が50万円かかっていると聞いている。有料化についての検討はされているのか。

Q 今日までの利用状況の詳細は。

A 現在は無料であるが年間の維持費が50万円かかっていると聞いている。有料化についての検討はされているのか。

Q 26年1月までの利用台数は、道の駅「ふじおやま」437台、「すばしり」254台です。休日等の利用は、平日の2倍で除外の

A 26年度、有料化に向けた調査・検討を進めていきたいと考えています。

Q 町立図書館の富士山コーナーの整備を

A 富士山の価値を内外に広く周知していきます

富士山が念願の世界文化遺産に登録された。富士山について、自ら図書館を訪れ、図書により学べる環境を整える必要があると思ふ。

富士山に関する蔵書を2千209点所蔵しています。その内の1千558点は、安田貞次コレクションとして、安田貞次氏のご遺族から平成6年に寄贈されたものです。それ以外にも、書籍他にDVDなどの映像資料が、富士山に係る研究等の資料として、好評を博しています。

Q 現在、図書館で富士山に関する蔵書の詳細は。

世界遺産登録後の富士山関連購入図書は。

Q 生涯学習課長

多様なニーズに対応できるように43冊の富士山に関する書籍、資料等を整えました。

Q 近隣市町の図書館に比べて富士山

関連の蔵書が少ないと思ふが、今後の整備計画は。

Q 生涯学習課長

A 教育長



▲気持ちよく身体を伸ばします（転ばぬ先の杖教室より）



阿部 司
(新生会)

Q お達者度を伸長するための今後の取り組みは

A 身近で継続的な運動教室を町内各地で開催します

お達者度とは、65歳をスタートとして、介護を受けずに日常生活を支援なく暮らせる自立期間を示すものであり、市町別に県が独自に算出したものです。

つまでも元気で、楽しい人生を送れるよう、町の今後の取り組みについて、以下、3点の質問をします。

Q 町が低い状況に属している原因あるいは要因は何か。

男女別年代別の死亡数及び要介護認定者数を県平均と比較した要因の分析結果は、男性は80歳以上、女性は85歳以上の要介護認定者数が多く、どの疾病が死亡に影響しているかについては、男性は糖尿病や結腸がん及び胃がん、女性は直腸がんやがん、急性心筋梗塞及び脳梗塞が多く、複数の要因があります。

Q お達者度を伸長させるための今後の取り組みは。

A 町長 健康と介護の担当部局で検討した「お達者度向上プロジェクト」を推進します。これは、

小学校区ごとに体力測定会を実施し、その後、運動教室の立ち上がった区や老人クラブには、公民館等への運動指導者の派



▲一色区シニア体力測定の様子

はつらつ元気サポーターという介護予防ボランティアの育成・増員を推進し、高齢者の健康と体力の向上、老人クラブ活動や趣味・行事等社会参加を促進し、お達者度の向上を目指します。

※健康課は平成26年4月1日の組織改革により健康増進課となりました。

この記事を見て、こんなに自然環境等豊かな小山町が、なぜ男女とも低い状況にあるのか不思議でなりません。記事の中には、健康づくりについて、静岡県内や千葉県佐倉市の取り組み等が具体的に説明され、「フン・ピン・コロ」で有名な長野県佐久市の状況等も説明がなりました。

小山町の皆さんが、い

Q お達者度上位の市町との情報交換や相互連携は。

A 健康課長



池谷 弘
(新生会)



▲あしがら温泉を拠点としたハイキングコースを

Q あしがら温泉周辺へハイキング道の設置とPRを

A 温泉を拠点とするコースの設定を検討します

近年健康管理や自然に親しむためハイキングを趣味にする方が多い。足柄地区は歴史や富士山の景観も良く、温泉もありハイキングに最適な地である。足柄S.Aスマートインターの早期設置により来訪者も増えスポーツツーリズムも進展していく。足柄駅や東名バス停も利用し、ハイキング道を設置し、各種交通機関でのハイキングの紹介により誘客を図るべきである。

Q 定柄S.Aスマートインターの現状と足柄地区ハイキングマップ作成は。

A 町長 国土交通省等との協議の中で必要となった足柄S.Aから県道御殿場・大井線に接続する道路の概略設計と将来交通量推計の成果を持って、協議会の設立に向けて事務を進めています。

Q 定柄地区は、世界遺産「富士山」を眺めながら入浴できる「あしがら温泉」もあり、ここを拠点とするハイキングコースの設定を検討します。

A 町長 「富士山」を眺めながら入浴できる「あしがら温泉」もあり、ここを拠点とするハイキングコースの設定を検討します。

Q コースとして、金時林道の利用は。

A 町長 林道整備状況や各種交通機関からコースを把握し、PRに努めていきます。

Q 各種交通機関による案内は。

A 町長 各種交通機関による案内は、

Q 各種交通機関からコースを把握し、PRに努めていきます。

A 町長 各種交通機関からコースを把握し、PRに努めていきます。

Q 各種交通機関からコースを把握し、PRに努めていきます。

A 町長 各種交通機関からコースを把握し、PRに努めていきます。

Q 学校給食での地産池消の進展を

A 確実な納品を実現する仕組みづくりが必要です

昨年、和食が世界無形文化遺産となり世界でも注目を集めている。小山町は農業も盛んで、特産物の御殿場コシヒカリや水掛け菜の産地でもあり、道の駅では手塩にかけた新鮮な野菜が毎日出荷され賑わっている。将来ある子どもたちに、いつも小山町の米や野菜を学校給食に使用して親しんでもらうことが大切である。

Q 学校給食での地産池消の現状と今後の予定は。

A 町長 「小山町教育長 ふるさと給食の日」を全小中学校で実施し、給食に小山町産食材を積極的に活用することにも、生産者の方と児童生徒と交流をしています。学校給食での地産池消は非常に有意義であるので、新鮮な食材を

確実に納品できる仕組みづくりを検討します。

色々の機会での農家の方等との交流から、農作物に関する知識や経験による知恵、作物を育てる大変さや収穫の喜びなどを子どもたちの得るものは

大きいと考えています。

町内産大豆の納豆利用は。

栄養バランスを考え、納豆の利用など和食の機会を増やすことを検討します。

一私 の 望 み

No.11



～富士山のある町 小山を世界に！～

糸賀千晴 (小山中3年)

2020年には、東京でオリンピックが開催され、日本に外国の方がたくさん訪れると思います。また、それを機に、世界文化遺産に登録された富士山に観光に来る人も多くなるでしょう。これは、小山町を世界にアピールするチャンスです。

そこで私たちのような若い世代は、小山町のよさを伝えるために、もっと英語を話せるように努

力したいです。小さな子供からお年寄りまで、英語でコミュニケーションが取れたら、どんなにいいでしょう。そのために、英会話の学習教室を開いたり、姉妹都市であるカナダ・ミシシオン市との交流を深めたりする。そんな環境作りを希望します。

そして、まず私たち自身が小山町のよさを知るために歴史など幅広い分野で学びたいです。コミュニケーションを築くことで様々な外国の文化や習慣を理解し、共有していくこと。それが、人と人とのつながりを作ると思っています。

これから先の将来に、小山町を訪れた全ての人に「この町に来て良かった」「また小山町に来たい」と思ってもらえるような町になるように、心から願っています。

町の100年先を見据え

「三来拠点」を視察 議員研修報告

小山町は、静岡県の防災減災、地域成長モデル事業、いわゆる「内陸のフロンティア」を拓く取組の一環として、「富士のふもと」に「三来拠点」3つの未来がはじまるまちおやま」と題して事業に取り組んでいる。

議会としても、この事業を町の未来を築く100年の計と受け止め、「内陸のフロンティア」を拓く取組

会にて2月に現地視察を行う予定であったが、大雪の影響で延期され、3月19日に実施の運びとなった。

視察は、町長戦略課担当職員からの説明により、まず、湯船原地区の約300haにも及ぶ広大な土地利用は森林資源を活用する木質バイオマスを中心とした工業団地の造成が進んでいる。次に、平成32年開通予定の新東名高速道路小山PAに設置されるスマートインター周辺には、モータースポーツ関連産業や地場産品販売等の地域産業集積地が予定され、足柄地区のRDFセンター跡地等を利用し「スポーツと健康」で創る着地型観光拠点施設の構想などが主なものであった。



▲(仮称)小山PA周辺を視察

長丁場ではあるが協力の思いを持ちつつこの視察を終えることとなった。
(記 米山千晴)

議会を傍聴 してみませんか

●本会議及び全員協議会は、会議の当日、役場4階議場傍聴席入口で住所、氏名、年齢、職業を書き添えてから傍聴していただきます。定員は29人です。

●常任委員会は、委員会の当日、開始30分前から15分前までに、役場4階会議室入口で、住所、氏名等を書き添えて受付してから傍聴していただきます。定員は8人です。定員を超えるときは、抽選により決定します。

会議録の閲覧ができます

議会だよりは、紙面の都合により、議員や町長等の発言を要約して掲載しています。詳しく知りたい方は、図書館で会議録を閲覧できますので、御覧ください。

<http://www.fuji-oyama.jp>

編集後記

2月中旬の大雪被害に遭われた多くの町民のみなさんに、心よりお見舞い申し上げます。改めて、緊急災害時の自助・共助・公助のあり方を考えさせられました。今回の教訓を共有し、今後に活かしていきたいと思えます。

さて、平成26年度当初予算審議を中心とした3月議会も終了し、新年度のスタートが切られました。小山町にとって、更なる飛躍に繋がる平成26年度になるように議会も努力してまいりたいと考えています。

また、3月と4月は別れと出会の月でもあります。私たちが議員も数多くの卒業(園)式や入学(園)式に出席させていただきました。その場でたくさんの方の感動を受け、改めて小山の子どもたちのために頑張る決意を新たにしました。
(記 高畑博行)

- 【編集委員】
- 委員長 米山 千晴
 - 副委員長 池谷 弘
 - 委員 高畑 博行
 - 委員 桜井 光一
 - 委員 池谷 洋子

